

令和元年度（2019年度） 建設常任委員会管内視察の概要

- 1 視察日 令和元年（2019年）9月2日（月）
- 2 視察者 建設常任委員会委員（8名）
緒方勇二（委員長）、大平雄一（副委員長）、吉永和世、小早川宗弘、前田憲秀、楠本千秋、松村秀逸、城戸 淳

3 視察の概要

（1）県道熊本高森線4車線化、益城中央被災市街地復興土地区画整理事業（益城町福原）

益城町において、県は、県道熊本高森線の4車線化及び益城中央被災市街地復興土地区画整理事業に取り組んでいる。

執行部からは、土地区画整理について、6月末には1回目の仮換地指定を実施し、現在は、指定した箇所についての移転補償や工事着手に必要な手続を行っており、来年の6月までには権利者の方に宅地を提供できるよう進めていきたいとの説明があった。



（2）宅地耐震化推進事業（西原村小森）

県道熊本高森線沿線の大切畑地区において、西原村が宅地耐震化工事を行っている。

西原村からは、地震後、住民が大切畑に帰れないという状況が続いているが、立派な擁壁を造り、もう一度宅地を見せると帰ろうと思う人も少なくなき、最終的には7割ぐらい帰ってきてくればという説明があった。



（3）俵山トンネルルート（西原村小森）

俵山トンネルルートについて、各被災箇所について県執行部から説明を受け、車窓から見学した。

(4) 立野ダム建設事業（南阿蘇村立野）

立野ダムは、白川の洪水調節を目的としたダムであるが、熊本地震により立野ダム建設工事も影響を受け、その復旧とともに、昨年度から本体工事に着手している。

国土交通省九州地方整備局立野ダム工事事務所からは、専門家に熊本地震の影響を調査してもらったが、ダムサイトそのものには地震の影響はほとんどなく、現在、基礎掘削中で、来年夏ぐらいには終了し、それ以降は、24時間のコンクリート打設になるとの説明があった。



(5) 南阿蘇村災害公営住宅（南阿蘇村立野）

南阿蘇村は、熊本地震に伴う村内2カ所目の災害公営住宅として馬立団地を整備し、平成31年3月に完成させた。

南阿蘇村から住宅の構造や配置の工夫等の説明を受け、住宅を視察した。

馬立団地は、入居者間の自然な交流を図るため、間取りの異なる組合せの2戸1棟の住宅を建設しており、将来入居者への払下げは行わない方針で契約されているとの説明があった。



(6) 直轄砂防災害関連緊急事業（阿蘇大橋地区）、阿蘇大橋災害復旧事業（南阿蘇村立野、河陽）

阿蘇大橋周辺では、国の直轄事業として、砂防事業及び阿蘇大橋復旧事業が進められている。

国土交通省九州地方整備局熊本復興事務所からは、各事業とも施工期間を短縮するため、3交代24時間施工で大勢の人が働くとともに、施工期間を短縮するため工事の工夫を行い、2020年度完成を目指して工事を進めているとの説明があった。



(7) 国道57号北側復旧ルート（阿蘇市赤水、大津町引水）

国道57号北側復旧ルートについては、国直轄事業により、令和2年度での全線開通に向けた工事が進められており、今回の視察では、平成31年2月に貫通した二重峠トンネルの工事概要の説明を受け、その内部を視察した。

国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所からは、設計段階から施工者が関与するECI方式を採用するとともに、トンネル本坑の切羽数を増やし、24時間3交代で施工することで、着工から1年8カ月の早期に本坑を貫通させることができたとの説明があった。

